



2026年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2026年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

シラスの漁獲量は紀伊水道東部では平年を上回り、紀伊水道西部では平年を下回る。その他の海域では平年並み。

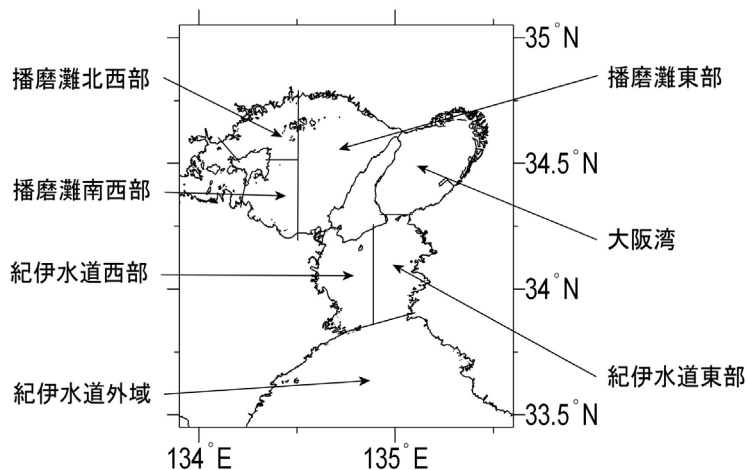
(2) 海域別：

紀伊水道東部のシラスは不漁であった前年、平年を上回る。

紀伊水道西部のシラスは不漁であった前年並みで、平年を下回る。

大阪湾・播磨灘南西部のシラスは不漁であった前年を上回り、平年並み。

播磨灘東部・播磨灘北西部のシラスは前年同様、平年並み。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：浮魚資源部（廿日市） 山下、河野

電話：0829-55-0666、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

2026年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2026年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部のシラスは不漁であった2025年、平年を上回る。

紀伊水道西部のシラスは不漁であった2025年並みで、平年を下回る。

大阪湾・播磨灘南西部のシラスは不漁であった2025年を上回り、平年並み。

播磨灘東部・播磨灘北西部のシラスは2025年同様、平年並み。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の代表値として予報を作成した。2015年～2024年の平均値を平年値とした（図1～図3）。

2. 漁況等の経過（2025年1月～2026年4月）及び今後の見通し（2026年5月～6月）についての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2025年の年間漁獲量は前年の76%、平年の69%であった。2025年5月～6月の漁獲量は前年の44%、平年の54%であった。2026年1月～3月は前年の210%、平年の197%であった。2026年4月13日現在、漁獲物の主体はカタクチイワシのシラスであり、引き続き、好調である。紀伊水道外域の和歌山県側では2026年1月～3月は前年の84%、平年の35%であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2025年の年間漁獲量は前年の65%、平年の53%であった。2025年5月～6月の漁獲量は前年の27%、平年の13%であった。

大阪湾（大阪府）では2025年の年間漁獲量は前年の120%、平年の73%であった。2025年5月～6月の漁獲量は前年の141%、平年の73%であった。

大阪湾（兵庫県）では2025年の年間漁獲量は前年の99%、平年の68%であった。2025年5月～6月の漁獲量は前年の196%、平年の68%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2025年の年間漁獲量は前年の90%、平年の92%であった。2025年5月～6月の漁獲量は前年の98%、平年の100%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2025年の年間漁獲量は前年の89%、平年の39%であった。2025年5月～6月の漁獲量は前年の185%、平年の68%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2025年の年間漁獲量は前年の512%、平年の97%であった。2025年5月～6月の漁獲量は前年の420%、平年の107%であった。

2026年4月17日現在、紀伊水道東部海域を除いて本格的なカタクチイワシシラスの漁獲は始まっていない。

(2) 日向灘～紀伊水道・大阪湾での卵稚仔調査結果

水産資源研究所（横浜、廿日市）がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2026年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められた。合計産卵量は6兆粒（前年比40%、平年比25%）であったが、3月は未分析の標本が多いことから、合計産卵量は過小評価されている可能性が高い。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が2026年2月に行った定線調査では、紀伊水道外域における卵密度は4.7粒/m²（前年採集なし、平年比103%）であり、仔魚は採集されなかった（前年採集なし、平年0.9個体/m²）。紀伊水道では卵は採集されず（前年採集なし、平年0.1粒/m²）、仔魚も採集されなかった（前年、平年とも採集なし）。一方で、和歌山県水産試験場が2026年3月に行ったボンゴネットによる上記と別の定線調査では、2011年以降の紀伊水道外域としてはカタクチイワシ卵仔魚が多く採集され、カタクチイワシ仔魚が紀伊水道内域にも分布していた。

大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センターが2026年1月～3月に大阪湾で行った定線調査では、カタクチイワシ卵仔魚は例年通り採集されなかった。

(3) 黒潮流路の現況と今後の予測（2026年5月～6月）

4月22日現在、シラスの来遊に影響を与える黒潮は潮岬沖で接岸している。潮岬以西の各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システム FRA-ROMS II による予測結果、及び最近の黒潮流路の推移等を併せて考慮すると、5月～6月における紀伊水道沖付近の黒潮は5月下旬にやや離岸傾向で、その後は概ね接岸傾向で推移すると予測される。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

(4) 今後の見通し（2026年5月～6月）

シラス漁況（本年春季発生群）

紀伊水道の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、及び外海からの輸送条件に依存する。本漁期の後半には紀伊水道～大阪湾での産卵に由来するシラスが漁獲される。4月22日現在、黒潮は潮岬沖で接岸しており、5月～6月の黒潮流路も紀伊水道外域において概ね接岸傾向と予測されていることから、外海からの輸送条件は良いと考えられる。日向灘～紀伊水道外域での2026年1月～2月におけるカタクチイワシの合計産卵量は平年を下回ったものの、紀伊水道外域東部や紀伊水道東部の3月におけるカタクチイワシ卵仔魚の分布量は多かった。加えて1月～3月のシラス漁は紀伊水道外域で不漁であったが、紀伊水道では好漁であり、4月も好調である。以上のことから、紀伊水道東部では不漁であった2025年、平年を上回ると予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においても外海からの輸送条件は良いと考えられる。一方で、1月～3月の紀伊水道外域西部における成魚の漁獲量は平年を下回っている。また紀伊水道西部において成魚を漁獲対象とする漁業者への聞き取りによると、2月以降漁獲量は減少傾向にある。本海域や周辺海域の漁況や産卵状況から判断すると、紀伊水道西部では不漁であった2025年並みで、平年を下回ると予測される。

大阪湾の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。日向灘～紀伊水道における1月～3月の合計産卵量は平年を下回っているものの、紀伊水道外域東部や紀伊水道東部における3月のカタクチイワシ卵仔魚の分布量は多かった。また5月～6月の外海からの輸送条件は良いと考えられることから、大阪湾では不漁であった2025年を上回り、平年並みと予測される。

播磨灘の春季シラス漁も主に日向灘～紀伊水道での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。上述の産卵状況、漁況、及び外海からの輸送条件から判断すると播磨灘東部と播磨灘北西部では2025年同様、平年並みと予測される。播磨灘南西部では不漁であった前年を上回り、平年並みと予測される。

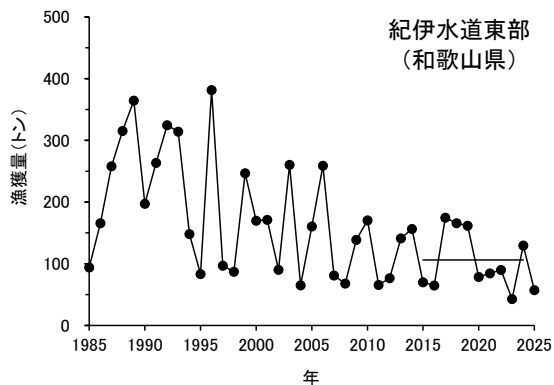
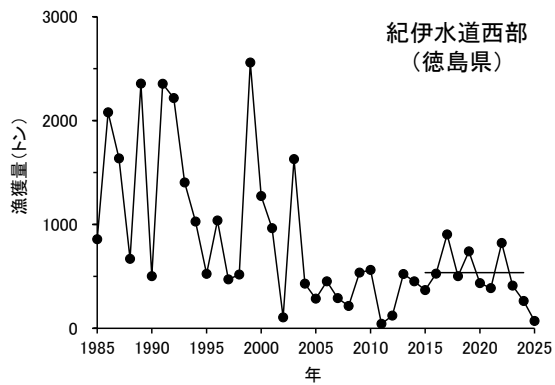


図1 紀伊水道西部（徳島県側）、及び紀伊水道東部（和歌山県側）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

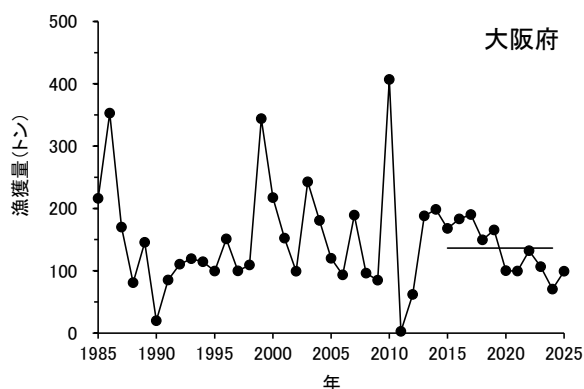
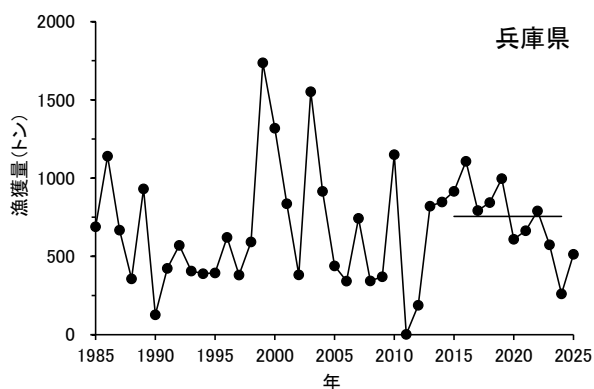


図2 大阪湾の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

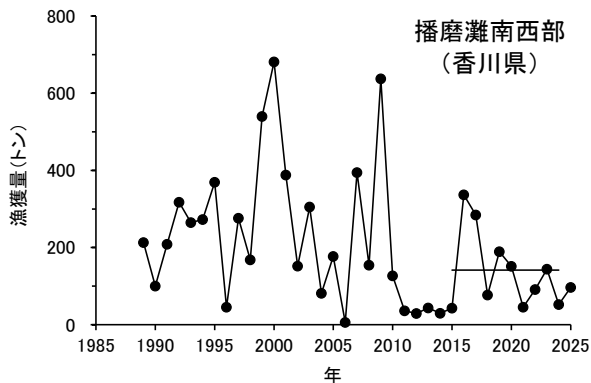
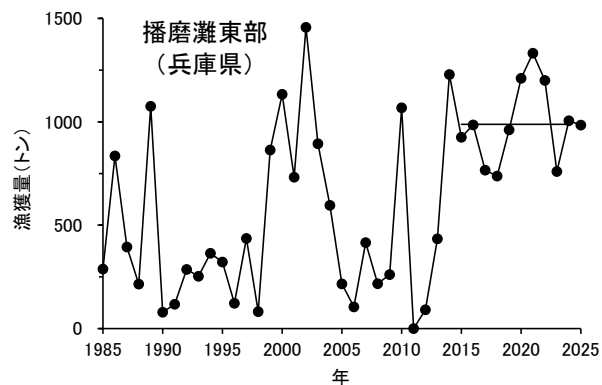
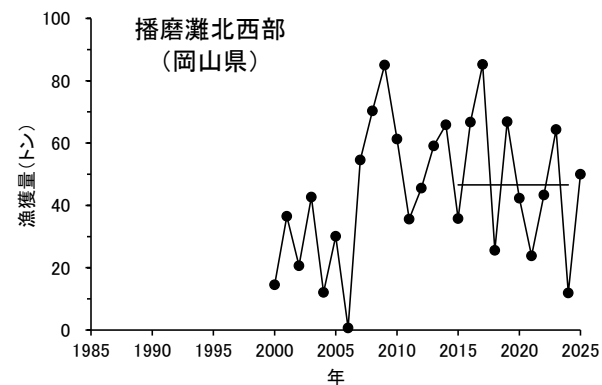


図3 播磨灘北西部（岡山県側）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側）、及び播磨灘南西部（香川県側）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p>	<p>香川県水産試験場</p> <p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	---